

大草谷津田いきものの里 自然観察会

アカガエルの卵はあるかな？

木下順次（千葉市）

日 時：2016年2月21日（日）10時30分～12時

天 候：晴

参 加 者：大人9名 子ども7名

担 当 指 導 員：山岸文子・木下順次

昨年は子ども18名を含む41名の参加者が集まったため、今年の動向を少し心配したが、今年は16名と観察会にはちょうど良い参加人数であった。今回のテーマ「アカガエルの卵塊」であるが、2009年までは毎年300個程度の産卵が確認できていたにもかかわらず、2010年から12年にかけて急に減少し、2012年にはついに17個まで減少してしまった。しかしこの年を底に毎年回復してきており、本年も現時点で卵塊は300超を確認していた。さらに観察会当日も参加者とともに3個の新たな卵塊を確認した。

原因ははっきりとわかっていない。観察会では一つの仮説として、いきものの里周辺の開発がすすみ、捕食者である小動物が周辺から集まってきたのではないかという説明をした。また、この地に生息する、4種類のカエル（ニホンアカガエル、アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル）について図鑑を基に説明し、それぞれの生活史が少しずつ異なることを説明した。卵塊は水中にあるため、細かな部分の観察や手触りを知ってもらおうと、卵塊・オタマジャクシを事前に採取・捕獲しておいた。直近（1～2日前）に産卵されたもののため、以前産卵されたものと比べて色や大きさが異なることもわかった。

アカガエルの卵塊以外にも参加者の興味を引く観察対象がたくさんあり、以下のような観察をした。畔際の水面で観察できる赤い油膜状のものは実は油ではなく、土壤に含まれる鉄分が鉄バクテリアによって酸化されてできた膜であり無害であることや、指で膜を壊したときすぐに復元せずぬるぬるもしないことで油膜との見分けができること。

水中の泥の中に残ったダイサギの足跡の観察など田んぼ周りで見つかるフィールドサインをみんなで探した。白い羽毛が水面に落ちていたので、最初ダイサギの羽毛だと考えたが、次々に見つかる羽根の色・形状からみんなで推理してカルガモの羽毛が正しいことを突き止めた。また、開花し始めたムラサキサギゴケを見てみると、南向き（コンパスによる確認では、ほぼ真南）の斜面に集中して咲いており、早春の植物の活動が日差しの強弱に影響されること。

野鳥関連では、セグロセキレイが地鳴きだけでなく囀りも始めていたこと、マンリョウの赤い実が落下した形跡がないのに、実がなくなっているのはヒヨドリなどの野鳥の仕業であることなど。先週末の雨のせいか、キノコ類も目に付いた。ヒメキクラゲ、タマキクラゲなど食用のキノコとの比較で興味を持つ参加者がいた。

卵塊数の回復が着実に進んでおり、一時的なものではないようで少し安心だが、依然原因ははっきりわかっていないので、どのような対策をすれば今後も良好な保全が可能なのか、専門家による科学的な調査も行っていきたい。

そして、この地の生物多様性がいつまでも豊かなものであるように、我々のような在野の市民活動家集団が、日々の活動を通じて、その知見に基づく保全活動を実践する必要があると強く感じた。